

<p>マクロ経済 産業動向</p>	<p>(1) <b>【2日 Daily Star 紙】</b> スマートフォンが人々の間に広まるに伴い、電池パック、ヘッドホン、ケーブル、カバー等の付属品や装飾品の売上が伸びている。業界関係者によれば、現在、これら付属品や装飾品の市場規模はおよそ 250 億～300 億タカであり、毎年 30～40%ほど成長している由。</p> <p>(2) <b>【3日 Daily Star 紙】</b> バングラデシュへの海外送金流入額は減少を続けており、昨今では、為替相場におけるタカ安の要因となりつつある。2017年7月(単月)の海外送金流入額は、前月比 8.26%減の 11.1 億ドルに留まった。また 2016/17 年度の海外送金額も 127.7 億ドルに留まり、前年度比で 14.47%も減少した。</p> <p>(3) <b>【9日 Financial Express 紙】</b> バングラデシュにおける養殖魚の市場は、過去 30 年間で 20 倍に拡大している。1980 年代は養殖魚の生産高は 12.4 万トンであり、市場で取引されていたのは、この内の僅か 60% (75,000 トン) であった。一方、現在では生産高は 200 万トンに達している他、この内 90% (180 万トン) が商業ルートで取引されている。</p> <p>(4) <b>【12日 Daily Star 紙】</b> オールドダッカを中心に、プラスチックのリサイクル・製造業者の多くが、おもちゃ製造に乗り出している。ある業者は「おもちゃは国内および国外の双方で大きな需要がある」と述べた。現在、このようなおもちゃ製造企業は 500～600 社に上ると見られている。</p> <p>(5) <b>【16日 Financial Express 紙】</b> 中古ペットボトルのリサイクルにより、樹脂の輸入量を 30%減少させられる可能性がある。バングラデシュは現在、ペットボトルの製造等の為に、年間 14 万 2,000 トンの樹脂を輸入している。もし中古ペットボトルを全てリサイクルすることが出来れば、樹脂の輸入額 (2,500 万ドル) を節約することが可能となる。尚、現在、ペットボトルのリサイクルが可能な国内企業は僅か 1 社のみで、年間 5,000 トンの樹脂を生産している。</p> <p>(6) <b>【17日 Daily Star 紙】</b> 北部を中心にした洪水により 200 万トンの米が被害を受けた。これを受けバングラデシュ政府は、今年度に 200 万トンの穀物 (米 : 150 万トン、小麦 : 50 万トン) を輸入することを決定した。これは従前の 90 万トンの輸入より、110 万トンほど上積みした格好。またバングラデシュ政府は、米の輸入にかかる関税を 10%から 2%に引き下げることも決定した。</p> <p>(7) <b>【17日 Daily Star 紙】</b></p>
-----------------------	---

	<p>2017年上半期のMaster Card Surveyの結果が発表された。バングラデシュの消費者は、将来の消費に関しアジア太平洋地域でカンボジア、ベトナムに次いで3番目に楽観的であることが明らかになった。この調査はアジア太平洋の18か国(9,153名)を対象に、「経済」「雇用」「証券市場」「収入」「生活水準」の各項目における今後6か月間の予測を回答して貰うもの。バングラデシュは2016年下半期より6.6ポイント改善し89.4ポイントとなった。</p> <p>(8) <b>【21日 Daily Star 紙】</b> 2016/17年度の貿易赤字は94.7億ドルに達し、6年ぶりに高い水準となった。これは輸出が1.73%しか増加しなかったのに対し、輸入は9%の伸びを示したことが要因。また、このような貿易赤字に、海外送金の減少が重なったことにより、経常収支も14.8億ドルの赤字に転落した。中央銀行の関係者は「このような貿易赤字は通貨安の遠因にもなっている」と指摘。実際、タカの為替レートは、2016年8月1ドル=78.4タカだったものが、1年後には80.7タカまで下落している。</p> <p>(9) <b>【27日 Daily Star 紙】</b> イスラム教の犠牲祭(クルバニ・イード)では牛を屠るが、この牛をオンラインで購入する動きが広がっている。既に1ダースほどのサイトで、このようなサービスを提供している。あるサイト運営者は「昨年は1億5,000万タカ~2億タカを売り上げた」と述べた。今年は3,000頭近くの牛が、ネットを通じて売買されると見られている。</p>
金融・物価・為替	<p>(1) <b>【1日 Daily Star 紙】</b> 過去5年間で銀行は、総額7,040億タカの融資を返済繰り延べ(loop reschedule)にしていた。これは昨日、中央銀行から発表された「Financial Stability Report 2016」の中で明らかになったもの。この原因につき同報告書は過度な貸付、低い審査能力、情実融資、リスク管理に関するコンプライアンス違反を指摘。</p> <p>(2) <b>【6日 Daily Star 紙】</b> 2017年6月時点の民間セクター向け融資残高は、前月比15.66%増の7兆7,605億タカに達した。一方、伸び率は金融政策で目標としている16.5%には届かなかった。この原因につき関係者は「メディアが不良債権に関する報道を行っている影響で、銀行は貸し出しに慎重になっている」と述べた。</p> <p>(3) <b>【10日 Financial Express 紙】</b> 銀行セクターの流動性が増加している。2017年5月の流動性は1兆タカを下回っていたが、6月に入り流動性は1兆600億タカに達した。中央銀行の関係者は「従前、流動性の多くはリスクフリーな投資として国債の購入に充てられていた。一方、今年度は政府による銀行からの借入は減少しており、このことが流動性の増加をもたらしている。」</p>

	<p>との見方を示した。</p> <p>(4) <b>【10日 Daily Star 紙】</b> 2017年7月の物価上昇率は、前月比0.37%減の5.57%となった。食品部門の物価上昇率は同0.56%減の6.95%、非食品部門は同0.14%減の3.53%であった。これは、米が輸入されたことにより、それまで高騰していた米価が落ち着きを見せたことが要因。尚、物価上昇率の発表は、月単位から四半期毎に変更されていたが、様々な反発により再び月毎の発表に戻された。</p> <p>(5) <b>【27日 Daily Star 紙】</b> 国営銀行の不良債権の内、上位20案件が全体の3分の1を占めていることが明らかになった。2017年6月時点で、この20案件の不良債権額は1,157億タカで、不良債権全体の33.48%に上る。不良債権の増加は銀行経営を圧迫しており、政府は過去4年間で963億タカを国営銀行に資本注入していた。</p> <p>(7) <b>【27日 Financial Express 紙】</b> 商業銀行からマイクロファイナンス機関への貸出は、銀行セクターにおける資金余剰およびマイクロファイナンスの低い貸倒率を背景に、6年間増加し続けている。銀行セクターの融資残高に占めるマイクロファイナンス向け債権の割合は、2016年は19%に達し2011年の11.2%から大きく増加した。</p> <p>(8) <b>【30日 Daily Star 紙】</b> 国営銀行8行は、政府により度重なる資本注入にもかかわらず、合計1,268億タカの資本不足に陥っている。2013/14年度から2016/17年度にかけて政府は、国営銀行8行に対し総額963億タカの資本注入を行った。業界関係者は、「かかる政府の施策は再検討が必要だ」と述べた。</p>
貿易	<p>(1) <b>【7日 Daily Star 紙】</b> 粉末ミルクの輸入量が倍増している。2009/10年度の輸入量は7.4万トンであったが、2016/17年度は13万トンに達した。業界関係者は、「お菓子、パン、アイスクリームなどの産業における需要が、粉末ミルクの消費量を押し上げている」と述べた。</p> <p>(2) <b>【7日 Daily Star 紙】</b> 2016/17年度のアメリア向け縫製品輸出額は、前年度比7.47%減の52億ドルに留まった。アメリカは、国単位では最大の縫製品輸出国である。業界関係者は、この背景について「バングラデシュは特惠関税を受けられないので、同様の製品でも他国製に比べて価格競争力が低い」と指摘。実際、バングラデシュ製品には15.62%の関税が掛かるのに対し、ベトナム製は8.38%、トルコは3.57%、中国は3%、インドは2.29%しか関税が課せられていない。</p> <p>(3) <b>【10日 Daily Star 紙】</b></p>

	<p>2017年7月の輸出額は、前年同月比26.54%増の32億ドルに達した。縫製品の輸出額も同17.08%増の24.7億ドルとなった。業界関係者は、「これは昨年7月の輸出額が低かったことが要因。単月の輸出額のみで今年度の動向を占うことは難しい」と述べた。</p> <p>(4) 【15日 Daily Star 紙】 野菜の輸出量が大きく減少している。2か月前は1日平均120トンの野菜が輸出されていたが、現在では1日平均70トンにまで減少している。関係者はこの背景につき「洪水被害により野菜の生産量が減少している他、EU向け輸出の自主規制が影響している」との見方を示した。</p> <p>(5) 【16日 Daily Star 紙】 昨年度(2016/17年度)の輸入額は、前年度比9%増の470億ドルに達した。この背景につき関係者は「紡績機、脱穀機、火力発電所向け機材など多くの産業機械が輸入された為」と述べた。実際、産業機械の輸入額は、前年度比37.39%増の48.5億ドルであった。</p> <p>(6) 【20日 Daily Star 紙】 バングラデシュ政府は、輸出促進に向けてインセンティブ体系を更改した。前年度は22セクターが対象であったが、今年度は新たに5セクターを加えた。これら5セクターでは、ITサービス及びハードウェアでは10%のインセンティブを、合成樹脂製の靴(15%)、製菓原料(20%)、蓄電池(20%)、ココナツ繊維(20%)が設定された。</p>
<p>雇用問題 海外出稼ぎ 社会保障</p>	<p>(1) 【19日 Financial Express 紙】 2017年1月～7月の新規海外出稼ぎ労働者数は596,705名に達し、前年同時期の421,216名より大幅に増加した。業界関係者は、「今後も海外出稼ぎ労働者は継続的に増加することが予想され、今年度は100万人を超えるのではないかと」の見方を示した。尚、海外出稼ぎ労働者数で最も多かったのはサウジ・アラビアの341,294名であり、これにカタール(57,707名)、オマーン(57,633名)、クウェート(31,225名)などが続く。</p> <p>(2) 【29日 Daily Star 紙】 およそ40%の縫製工場で、イードのボーナスが支払われていないことが明らかになった。産業警察はダッカ、ナラヤンガンジ、ガジプールおよびチッタゴンの約3,500の工場の内、労働省が定めた期限までにボーナスが支払われたのは約60%のみであったことを明らかにしつつ、「残りの工場主もイードまでに支払うと我々に約束した」と述べた。</p>
	<p>(1) 【4日 Daily Star 紙】 バングラデシュ政府統計局の調査により、過去10年間で離婚と別居が増加していることが明らかになった。2006年の離婚率は人口1000</p>

<p>社会</p>	<p>人に対し 0.6 件であったが 2016 年には 1.1 件に達した他、別居率も同期間に 0.2 件から 0.6 件に増加した。関係者は「10 件の内 7 件は、妻から離婚を切り出されている。最近の女性は、以前よりも自身の権利に対する意識が高く、自分の人生を意義あるものとしたがっている。もし婚姻関係が彼女たちの夢の実現を阻むものであるならば、彼女たちは自由になることを選ぶだろう」と述べた。</p> <p>(2) 【14 日 Daily Star 紙】 長引く大雨が、バングラデシュ国内の主要河川の水位を押し上げており、北部 14 郡では洪水に見舞われている。防災局によれば、現在までに 12 万 8,000 世帯が洪水に直面し、この内、4,950 世帯が 562 か所の避難シェルターに避難している由。</p> <p>(3) 【16 日 Daily Star 紙】 現在の洪水により 23 郡の 20 万ヘクタールの稲作（アマン米）が水没した。農業振興局は、水が 2～3 日で引けば稲作への影響はないものの、水没期間が長引けば、稲作に従事している数千軒の農家に影響がでる恐れがあるとしている。</p> <p>(4) 【20 日 Daily Star 紙】 バングラデシュ北部に引き続き、北西部の Rajshahi でも洪水被害が広がっている。関係者は、洪水が及んでいる地域は 14 郡から 20 郡に拡大したことを指摘した上で、「水位は上昇を続けており、多くの人々は親戚の家や避難シェルターなどの安全な場所に移動している」と述べた。</p> <p>(5) 【26 日 Daily Star 紙】 25 日、ミャンマー西部 Rakhine State で、ロヒンギャ族と警察が衝突。双方で 89 名の死者が発生した（警察側：12 名、ロヒンギャ側：77 名）。昨年 10 月以降、ミャンマーからバングラデシュ側に流入したロヒンギャ難民は 87,000 名に達するが、昨日の衝突により再び難民の流入が増加することが懸念されている。</p>
-----------	--

(了)